

KSKP THRESHOLD

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.22

~すれっしょんど~ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



神戸ダルクが新しい場所へ

まだまだ先が見えないこのコロナ禍にて、世間は通常のように動いて見えますが、実際にはこれまで行ってきた人とのつながりは希薄な状態で、この環境に慣れてくると、目に見えないつながりが無い世界が当たり前になってしまうような不安も感じる今日この頃です。神戸ダルクでも、少しずつ通常のプログラムに戻って行っていますが、やはりこれまでのように、日本中の仲間たちとつながっていることを感じられるダルクのコミュニティの素晴らしさが活かしきれていない現状に、仲間たちに申し訳ないような想いや、ヴァーチャルでしかミーティングを知らない仲間、他のどの世界でも見つけられなかった「僕たちが見つけたこのコミュニティの素晴らしさ」を見せてあげたいという想いから、どうにもならない切なさを感じていました。

昨年のことですが、私の地元である愛知県岡崎市で行われた「岡崎ダルクフォーラム」の時に、私がダルクを卒業して名古屋で活動していた時の仲間と再会して「何かイベントやりましょうよ」って話をしていたのですが、先日その仲間たちが企画した「合同キャンプ」に参加しました。久々のリアルな仲間とのフェロウシップだったのですが、「久しぶりの感動」よりも、私は「絶対に安心できる空間」を感じました。いつものなかまといつものセッション。そんな感じです。

さて、話は変わりますが、このコロナ禍での問題に対して「カリタスジャパン」様より、神戸ダルク本部の移転の支援をいただき、現在神戸市長田区へ移転の最中です。なんとも狭苦しいこれまででしたが、3階建ての、新聞屋さんの建物をお借りすることができました。次のニュースレターでは、正式にこの下に書かれている住所も新しくなっていると思います。本来ならそれに合わせてフォーラムを開催するのですが断念しました。が、来年は5周年です。それに向けて仲間たち一人一人が未来を計画しながらどんどん成長していく姿に私たちは守られているようです。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

この稀な出会い グループホームスタッフ モッチ

きゅうや拝みしょうらん(奄美の方言、こんにちは。)グループホームで世話人をさせてもらっているモッチです。

私は、淡路島で生まれ、5歳の時に父を亡くした。それからはずっと鍵っ子となり、普通に貧しい暮らしをしていた。そんな時、私のこころを癒してくれたのが、私と同じような境遇で生きてきた地域の友達であった。これは、今で言う、ヘルパーセラピー効果であり、NAであったと思います。

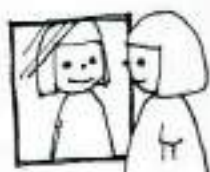
しかし、それらを全て、ぶち壊したのが、その友達らに蔓延した薬物でした。10人くらいいた仲間は、全員どこかへ消え、音信不振、今では生死さえ分からない。「あの頃に、ダルクがあれば」とずっと考えていた所、とうとう、いや「やっと」、神戸に67番目のダルクが誕生したと聞いた、どんな「おひと」がここ神戸でダルクを始められたのか、とても気になり、一刻も早く学校を卒業して、ダルクに関われないかと思っていました。本当に待ちに待ったダルクであり、それを作った代表ならびにスタッフの方々には大変感謝しております。ありがた様りょうた。(奄美方言、ありがとうございます。)



自分自身まだ、心の安らぎには至っていないと思っています。宜しくお願いします。ちなみに私は、社会福祉士と言う肩書きもあり、少しPR(宣伝)をさせてください。『社会福祉士は、社会福祉士としての専門の「ちえとわざ」で、体や心に不自由があったり、環境上の理由で普段の生活がやりにくい者の福祉の関する話を聴いて、アドバンスをしたり、福祉のプロや医者や保健の人やら、保健や医

療や福祉のサービス業者などに連絡したり、都合をつけたり、さらには、皆さんにとってのより良いサービスを探し出したりをお世話することを業とする者です。』何なりと相談をお待ちしております。

神の引き合わせに稀、稀なきや拝でイ(奄美方言、この稀な出会いも神のおかげさまで。)



私の体験談

一緒に歩もう やまちゃん

薬物愛好家のやまちゃんです。

体験談を語れとの事なので、わしがこの三か月間で感じたことを、あるがまま書きます。

環境が変わったら、己を変えろ、成功も失敗も何度か経験してるし、人生なんてそんな簡単にリセットできるもんやないし、過去はいつまでもついて回る。罪を償うことはできても過ちを犯した過去を消すことは決してできない。自分では、中間施設神戸ダルクにかかわり少しずつですが、今のおのれを顧みる瞬間があります。特殊な壁は共意識が強く、物欲、物事に対する意欲すら失われる。

それは、少しだけよいことやな一つと感じる。先取り不安や焦りを感じないし、目で見えるもの、耳で感じること、すべてがすごく新鮮で、己が歩んできた道、半生を恥ずかしく感じさせる場やな一つと思う瞬間があります。

中間施設とはどんな場やと思う人たちが多くでしょう、中には、傷のなめあい、自己中の集まりや、というものもある。それは本当のことやし、偽りないことです。せやけど、それで救われるものが多いことも事実です。

俺は人一倍「我」が強いし、自負を持っているし、己の主張を述べる手段も持つとるけど、自由になった気がしとる。不思議に……。

色々なシバリ事、不自由な中でも、たった三ヶ月で感じ体験したことが、うぬぼれ強い俺を砂の様に少しずつ柔らかくしてる気がする。例えば方が悪いかもしれへんが、そういうことや。じっと座って物事を考えてるだけじゃアカン、そんなことをしたってどこも行けんし何も変わらん。あるがままの自分を見せることがダルクであり、分かち合うことで助かることもある。けどそんな中でも己の静寂をなくすこと、孤独を選ぶ自由を奪われない様に、と思う。

わしは「まだ」まだたったの三ヶ月しかたつとらんけど、自力でできないことを学んだし、日々色々な感情と体験もしとる。ただ、一つだけハッキリとした心根を守っとる。

それは、己にうそをつくな、自ら選んだことを決して中途半端で終わらせるな、ということ。中途半端じゃ何もわからず何も変わらん、ということも知ってるからや。これからはいろいろな体験や、苦、悔、怒、痛、と体験するやろう。せやけど、己との約束だけは守る。その一念です。今までの半生が恥ずかしいものやったら、偽りの半生、普通に笑いたい薬物なしの笑う幸せが歩めればと思う。

同じ夜は一つもないけど、どの夜も同じように生きたい、自分たちはみな、それぞれ罪を犯し、みな違う人間や、月日は又来る二度と繰り返すことのない一日がおのれをまっている。

新しい生き方がもし、本当にあるのなら、わしは自らの足で踏みだしたい。そう思っとる。薬物なしの新しい生き方を。

薬物にかかわり三十六年の愛好家の山ちゃんでした。不思議な体験や感じ方の違いをしたいと思ったら、一緒に歩もう。



「NA ギャザリング in 静岡」

ヨシ

皆さん、こんにちは。

最近、柄にもなくNAミーティングを大事にしているアルコール依存症のヨシです。

早いもので、僕が神戸ダルクにつながり間もなく一年になろうとしています。後半の半年間はコロナ禍により日常生活に種々の制限・制約が課され、十月現在でも閉鎖されたままのNA会場は多く、毎日のミーティングはZOOM(ズーム)というアプリを利用してネットにてバーチャルで行っています。そういった状況ですので、全国各地のNAメンバーとリアルでフェローシップ(触れ合い)をとることのできる僕にとって初めてのギャザリング(集い)はとても楽しみであり、実際非常に有意義なものでした。

本当に不思議なものです。なぜなら見ず知らずの何処かの誰かであっても、(回復を目指す)NAメンバー同士は出会う前から既にもうお互い「仲間」なのですから。こんな世界・人間関係が他にあるでしょうか？少なくともこれまでの自分の人生には断じてないものでした。青空の下でのバーベキューでは美味しいお肉を饕餮ご馳走になりましたが、「嗚呼、飲みたい！」という飲酒欲求が顔を出すこともなく食事とその時間を満喫できたのも、偏にその初対面ながらも大切な「仲間たち」の存在があってこそのものでした。感謝、感謝です。



初日の夕刻のスピーカーズ・ミーティングでは、回復二年～三年の二人の仲間の体験談発表がありました。聞いていてひしひしと感じたのが、どちらのお話も「使い込んだ」ものであるということ。「作り上げた」や「使い回した」ではなくてです。日々の回復の道のりの歩みと毎日のミーティングを通して、徹底的に自分語りを続けていくことでしか得られない自分だけの回復の物語が見事に描かれていました。回復を実感し、前を向いて歩いているんだ、という現在の自分を肯定的に捉えることの積み重ねと繰り返しが、失敗と後悔と反省ばかりの過去に少しずつでも意味を与えていくようになるまで、自分自身を見つめる作業を怠ってはならないのだということを教えて頂いたような気がします。

三人目のスピーカーは、まさか当施設長のウメさんでした。NAサービスにまつわるお話でしたが、とにかく熱い。熱い人間だということは聞いていたし、知っていたつもりでしたが、まさかこんなに熱いとは。なぜ自分はサービスを一生懸命やるのか？それはサービスをやっているとき自由を感じられるからだ。どこかの山登りの神のような言い回しでしたが、夢中になれる対象を持っている人というのはやはり輝いて見えました。いつもどこか冷めた所のある自分のような人間にもその熱は伝わり、「なにかしなくては、なにかはじめなくては」という思いに駆られたまま珍しく(潔癖症なので・笑)銭湯の湯に浸かっていて、はたと自覚したことは「いまの自分が何かに没頭したら再飲酒してしまうだろう」ということでした。「有頂天のスリッパ」というやつですね。口惜しいですが、これがクリーン(断酒)一年生の現実なのです。やり過ぎることも、やらなさ過ぎることも依存症者には危険だと言いますが、例えそれが「良い対象」であっても何かに熱中することは、しばらくはまだお預けのようです。恋愛もその一つですね、きっと。

中間施設での入寮期間の目安は二年(から三年)のようですが、だとすると僕はもうその半分の行程を終えようとしています。正直に言って、入所当時は安定したクリーンを自分のものにするにあたり、その時間の中で回復と成長をもっともっと日々体感できるものだと思いにイメージしていました。「できること」が、日進月歩で増えていくと想像していたのです。しかし十二ヶ月分の「今日一日」の中では、寧ろ「できないこと」を突き付けられ、痛感するばかりだったように思います。我々が大事にしている「平安の祈り」の文言にある、「変えられるものと変えられないものを見分ける賢さ」を体得しながら、「できること」の喜びを感じられる神戸ダルク二年生を期待したいと思います。



太鼓 in OKINAWA

ジャイアン

皆さん、お元気ですか。アディクトのジャイアンです。僕が今回原稿を書きましたのも、10月の始め、当所施設長の志使いにより、沖縄へ。太鼓の買付け、そして、僕がいま一番熱く取り組んでいるエイサーの見学又沖縄ダルクの見学でした。初日に、太鼓の買付けに、うるまのお店に入った瞬間、電気が走ったというか、道中ポスターを見掛けはしたものの、いざ、色々な太鼓そして太鼓にまつわる衣装を目の前にして、ビックリしました。

太鼓の色、形、さまざまで、細かく言えば同じゆの太鼓でも、重さが違うものがあり、目移りして、大変でした。自分の太鼓が、思わず欲しくなり、金額を見て断念し、結局購入したのは、バチ2本でした(笑)でも、「自分の太鼓」を買うのを目標にして、お金を貯めて、いつになるか分かりませんが、購入したいと思います。次の日に、沖縄ワールドのスーパーエイサーショーを見学に行きました。ショーが始まった瞬間、生演奏の三味線、生歌、共に5人の女性が太鼓を叩きながらの入場、僕の1mm手前まで来ての演技、始まった時、僕がやっているのは「遊び」と感じるものがありました。あの女性の、それも細い女性の方の力強い太鼓を叩く音とても素晴らしいものでした。そして僕らが、エイサーの練習の時にはない満面の笑み、いくら、お客さんの前とは、いえ、あの笑顔は、本当に素晴らしかったです。僕は今、太鼓を叩くのに次の演技と頭で考えながら、一杯一杯と言うのが現実です。笑顔を出すように、演技は体で覚えて、顔は笑顔を出すよう心掛け、いつの日か、観客の前等でエイサーが、披露できる日が来ることを夢に見ながら、自分なりに、一生懸命太鼓に取り組む、回復の道を一步一步と階段を登り進んでいこうと、最後の日に高速艇で渡った久高島の岬で、バチ回しをし、神様に誓ってきました。これは、僕の大きな願いであり、夢です。太鼓の文は、この辺で、終文と致しますが、沖縄に行った際、色々とお世話になった沖縄ダルクの施設長カゲトラさん、スタッフのタロウさん、沖縄ダルクの仲間、そしてガイアのタロウさん、ケンジさん、その節は色々とお世話になりました。また、お会いできる日を切に願っています。



はじめての沖縄 タク

今回太鼓の購入も兼ねて沖縄タコスを食べ歩きをしました。神戸ダルクでもタコスを作っていて、一度本場の沖縄タコスを食べようということで同行させていただきました。神戸ダルクのタコスで満足していましたが、沖縄で有名なタコス屋さんで食べたタコス、生地が全然違いました。結果、神戸ダルクでも生地(マサ)を作ることになりました。まだ始まったばかりなので、納得のいく生地はできていませんが研究して、神戸ダルクヴィレッジのタコスを完成させたいと思います。タコスで回復?できたら幸せです。ハッピータコス(^-^)/



帰ってきての心境 ギャンブル依存症 ナオ

違和感があったのは、7月中旬ごろでした。「ダルクでの生活が楽しくない。」「周りにいる仲間に興味がなくなった」そんなことを信頼している仲間2人に話をしていましたが、私にとって最悪の始まりだとは気付きませんでした。

8月2日の夜、生活している寮を飛び出していました。「ここに居ても何もならない。この生活があと何年続くのか？」などと思い、繁華街の三宮に向かい、翌日にスロットでスリップしました。いつものパターンでした。一度スリップしてからは欲求が強く、在籍している大学や控えていた民事裁判を理由に、8月20日頃に自主退所し、実家に帰りました。

しかし、実家では何をやる訳でもなく、屋に起きてはパチスロの動画を見るだけでした。

そして、裁判直前の9月10日、近くを散歩してくると、嘘を書き残し、実家の近くのパチンコ店でスリップし、今回のリラプスのスタートでした。所持金は33万円ありましたが、初日で7万円負けました。閉店時間になると、頭の中はパニックになり、「取り返すまでは家は帰れない。」という思考となりました。一晩中歩き続け、2つ隣の街まで行き、翌日もパチンコ店にいました。結果は6万円負け。何をやっても勝てませんでした。それでも止まらないのが、この病気です。

次の日もパチンコ店で6万円負けました。夜は公園で野宿していたので、体力も精神もボロボロでした。しかし、負けている間は実家に帰る選択肢はありませんでした。



4日目、また違うパチンコ店へいきました。だが、その日は違いました。1万円で大当たりを引き、夜まで当たりが続き、7万発以上でました。換金所で30万近く換金しました。昨日まで20万近く負けていても、1日で取り返し、「まだこの道でやれる。この道しかない。」と頭の中では方程式が書き換えられていました。

結果としては、20日間路上やネットカフェで生活し、所持金がなくなるまでギャンブルを続けました。身も心もボロボロになり、何度も同じことを繰り返してしまい、生きるこ

ともなんども諦めかけました。

それでも、戻って来れたのは、親より先に死ぬ訳にはいかないという信条があったのと、このままみじめな最後を迎えたくない、今の生活より少しでもまともになりたい、と思えたからです。

10月1日の夜、実家に帰り、母と2~3時間話し、治療したいと伝え、翌2日には神戸ダルクに戻ることが出来ました。

今回で4回目の入寮になりますが、2年半掛かって、自分の状況を少し受け入れられたのかもしれない。

今の自分が何処に病的である事、1人では行きていけない事、そして、もうギャンブルが出来ないという事を。

これからは、もっと仲間と話し、自分のことを理解していきたいです。

枯れても腐るな、自分。



活動報告

8 月

鳥取ログハウス修繕
神戸ダルク家族教室
タコス販売再開
ヴァーチャル ヨーガ(オンライン)
神戸ダルク本部引っ越し作業開始
和歌山ダルク池谷施設長 RD ワークショップ
カリタスジャパンセミナー参加
市ヶ原ハイキング & 水遊び
神戸ダルク家族会
三重ダルクフォーラム参加(オンライン)

9 月

NA ユニティイベント参加
神戸ダルク家族教室
出張無料家族相談姫路
出張無料家族相談尼崎
松山刑務所薬物離脱指導教育参加
タケ生誕祭
メッセージビデオ作成会
治療共同体研究会参加
加古川学園講演
あなたの声を届ける一般報告会開催
トラウマインフォームドケア学習会参加
トラウマティックストレス学会参加
病者・障がい者とともに歩むミサ参加
京都ダルク合同ソフトボール大会
長田区保護司会役員会参加
有園博子基金事業報告会開催
NA CAMP 浜松参加
NA APF 中間会議参加
茨城ダルク岩井さん来訪(家族会)
地域移行研修会参加
加古川学園講演

10 月

神戸ダルク家族教室
大阪コミュニティ財団説明会参加
ファイザー2021年度選考会参加
出張無料家族相談姫路
出張無料家族相談尼崎



近況報告・活動予定

昨年からの取り組みで「有園博子基金」による研究事業が、コロナの影響もあり漸くまとめることができました。報告書作成と報告会も開催しました。実際には、コロナの影響で、多くの方にお伝えすることができていませんが、非常に有意義にこれからの神戸ダルクの取り組みの礎になっていくと思います。報告書希望の方はお知らせください。また、この事業に協力していただいた方々の愛に本当に心より感謝いたします。

また、ハワイの仲間を経由して、姫路に大きな物件を提供していただく話も進んでおります。そして、コロナの影響を鑑みながら、地域貢献の活動も支援者の方々と共に動いていく機会を与えられています。それらは、次回にはお伝えしていけそうです。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただければ幸いです。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも温かく見守ってください。

ご献金

富田 安世様 NPO法人禁煙推進の会兵庫さんだ 大月 勝様 名嘉 信義様 琴浦 圭子様 坂野 結子様 横田 尤孝様
千原業の花家族会 富井 健夫様 坂井 宗月様 間 明子様 畠山 茂祥様
兵庫県健康福祉部健康局業務課業務対策・調査班様 河岡 穂和様

ご献品

播磨社会復帰促進センター様 小島 知子様

(令和2年25日～令和2年10月10日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。不思議なもので、お米のストックがあると、本当に安心します。生活習慣病を気にしながらも、回復初期は食べて栄養をつけて体力的に回復するところから始まります。コロナ禍にて非常にたくさんの方々が寄付や献品を送っていただきましたことに、心より感謝いたします。まだまだ予断は全く許さず、少し行動範囲も広がったものの、自粛生活は続いています。

ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブ・自転車などもございましたら是非譲ってください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。

回復の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。

また、あっという間に年末になってきますが、自粛生活の下で、せめて美味しい団圓を年末年始は提供していきたいとずっと神戸ダルクではやってきました。少しの贅沢な食事を提供するための寄付をいただくと非常に助かります。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

仲間が送ってくれた原稿の誤字脱字を校正しながらレイアウトしていく作業は、いつも徹夜作業になります。ずっと徹夜明けも仕事で頑張ってきましたが、スタッフの充実と賢明な熱意の支えもあって、徹夜明けはしっかり休むようにできています。このコロナで、健康と命の大切さをみんなで分かち合っています。また、原稿を校正しながら、仲間の文章に目頭が熱くなることが多くなりました。涙もろくなったのではなくて、ようやく普通に泣けるようになった。ずっと我慢してきたんだろ？って言うてくれた仲間の言葉が神の声に聞こえたように思える今日この頃です。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.22

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部100円 年会費2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階